

第3期雲南市観光振興計画に対する
パブリック・コメント（意見募集）の結果及び
意見・提案に対する市の考え方について

- ・公表した資料 第3期雲南市観光振興計画
- ・意見募集期間 令和8年2月18日～令和8年3月18日
- ・資料等公表場所 市役所本庁舎4F産業観光部、コトリエット内「うんなん観光案内所、各総合センター、雲南市ホームページ
- ・意見提出人数 2人
- ・意見提出件数 24件
- ・お寄せいただいたご意見・ご提案と市の考え方

No.	提出されたご意見・ご提案	ご意見・ご提案に対する市の考え方
1	前回計画の達成度を数字で評価されている点はすばらしい。今後も継続して行ってほしい。	ご意見ありがとうございます。
2	目標未達の理由として、内部的な要因の分析をしっかり行ってほしい。観光に関わる事業者や一般市民を巻き込むための啓発・話し合いを通じて政策の浸透がどこまで進んだ結果として前回計画の達成度があるのか示してほしい。	観光に関わる事業者の皆さんには、主に雲南市観光協会が実施する施策を通じて関わっていただきました。一方で、市民の皆さんに対する広報・啓発活動が不十分だったため、市民を巻き込んだ施策展開に至らず達成度に影響していると考えます。
3	総括の中に「SNSによるきめ細やかな情報発信を継続」とあるが、HPアクセス数の目標値未達や日帰り客の満足度の低さについて情報発信に関する原因が挙げられている。総括に情報発信に関する課題について指摘があるべきではないか。	総括（計画17ページ）に追加記載を行いました。
4	「観光まちづくり」を掲げるのであれば、広く市内事業者・団体・市民と共に創っていく姿勢が重要と考える。情報収集だけにとどまらず、しっかりと共創する姿勢とそのための施策が必要ではないかと思う。	第3期計画の重点項目（6）施設の魅力化と受け入れ体制の整備の成果指標に「市民や学校での普及啓発実施件数」を掲げました。前計画の反省を踏まえ、「えすこ会議」などの場も利用しながら意見交換をしていきたいと考えます。
5	市内でさまざまな情報発信がバラバラに行われている。どのように戦略的に情報を発信していくか、そのために関連するプレイヤーの連携を取っていくのか具体的な施策をお願いします。情報発信を担うさまざまなプレイヤーが連携できるような枠組みの整備やその前提となる交流が必須と考える。	情報発信に関わる人たちが交流し、情報交換できる場を増やしていけるよう取り組みを進めて参ります。
6	観光の形がいろいろあり、関係人口の増加に向けた施策がさまざまな分野で進む中で、関係人口に関連する市役所内の他部署との連携をどのように行い、成果につなげていく考えなのか、教えてほしい。	庁内及び地域連携は「えすこ会議」や庁内プロジェクトチーム会議を通じて推進します。
7	第3期観光振興計画案において観光を単なる集客ではなく、観光消費が市内経済循環を促していくことをめざしている点は人口減少が進む中山間地域の観光政策として筋が通っています。計画が有名観光地型の大量集客ではなく、受け入れ可能規模を考慮しながら、雲南市の伝統	ご意見、ご賛同いただきありがとうございます。

	文化や暮らしの魅力を味わうことのできる体験コンテンツの開発を重視している視点は今後も計画全体の軸として堅持されるべきです。	
9	<p>・日帰り客を滞在客へ転換する具体策、松江・出雲との“ついで立ち寄り”を“目的地化”へ変える具体策を、もっと明確に書き込むべきです。</p> <p>・観光を「来てもらうための仕掛け」としてだけでなく、「地域が自らの価値を見つめ直し、次世代へ受け継いでいく営み」として位置付ける視点を、今後さらに強めていただきたいです。</p>	<p>貴重なご意見として参考にさせていただき、今後の個別の取り組みを進めて参ります。</p>
10	<p>【観光人材の確保・養成】</p> <p>・観光ガイド養成の方法、報酬や謝礼の考え方、若年層の参入促進、地域自主組織や学校との連携など、人材確保策をより具体的に明示すべき。</p> <p>・観光ガイドの担い手が減少しているのに、今後ガイド実績や登録者数を大きく伸ばす計画は実効性がありますか。</p>	<p>・貴重なご意見として参考にさせていただき、今後の個別の取り組みを進めて参ります。</p> <p>・雲南市観光協会において観光ガイドを起用したツアーの企画や旅行会社への提案などを積極的に行い、実際に観光ガイドが稼働する機会を増やして実効性を高めていく考えです。</p>
11	<p>【インバウンド受入】</p> <p>・外国人市内宿泊者数について現状値からみると非常に大きな伸び幅であり、受け入れ基盤整備のスピードが伴わなければ実現は困難です。目標設定自体を否定するものではありませんが国内観光とインバウンドの優先順位、短期・中期・長期での段階的な到達イメージを、より丁寧に示したほうが計画の説得力は高まると考えます。</p> <p>・インバウンド推進に必要な受け入れ環境整備は十分か。宿泊・交通・ガイド・多言語対応の体制が現実的か。</p> <p>・インバウンド誘客において、台湾などのつながりを活かしたプロモーションとは具体的にどのような取り組みですか。</p> <p>・外国人宿泊者数を30人から9,306人へ増やす目標の実現可能性をどう見えていますか。主なターゲット、誘客ルート、</p>	<p>・貴重なご意見として参考にさせていただき、今後の個別の取り組みを進めて参ります。</p> <p>・R7年度に宿泊施設が開業し、受け入れ可能規模は増えましたが、交通手段や観光ガイド、多言語対応は雲南市内だけでは十分な体制とはいえません。島根県や周辺自治体とも連携しながら地域全体で受け入れられる環境整備を進めて参ります。</p> <p>・R5年度に台湾の二林鎮と交流協定を結んで以来、観光面だけでなく市役所や教育機関の視察等で行き来する機会が増えました。実際に雲南市にお越しいただいた皆様の満足度を高める工夫を重ね、台湾国内で良質な評判を増やし、さらなる誘客につなげる考えです。</p> <p>・宿泊者数はR7年度に開業した宿泊施設によって大きく受け入れ可能規</p>

	<p>受入体制整備の具体策を示してください。</p> <p>・観光タクシー・レンタサイクル・シェアカーなど、インバウンド向けの交通手段確保についてどのような取り組みが行われていますか。</p>	<p>模が増えています。また R8 年 1 月からは雲南市内のほとんどすべての宿泊施設で観光動態調査にご協力いただけることとなり、調査の母数が増えたことから、目標値も大きく伸ばしています。主なターゲットや誘客ルート、受け入れ態勢整備については前述したとおりです。</p> <p>・観光タクシーは雲南市観光協会が市内の主な見どころをタクシーで巡るプランを販売しています。また雲南市観光協会においてレンタサイクルの取り扱いを行うとともに、ダイハツと連携して木次駅前にシェアカーを配置しています。ただ、インバウンド利用には至っておらず、今後の課題として解決に向けて取り組みます。</p>
12	<p>【地域の持続可能性・経済循環】</p> <p>・市民、地域団体の自発的関与を重要な原動力と位置付けるのであれば、地域ごとの負担の偏りや、観光への温度差、担い手不足にどう向き合うのかを合わせて記述すべきです。観光客満足度だけでなく、受け入れる地域側の持続可能性を確認する視点が必要です。施策展開による成果が地域住民の暮らしや地域経済にどのように還元されたのか、また地域の負担や偏りが生じていないかという観点も丁寧に検証していくことが必要です。</p> <p>・地域住民にとって負担だけが増えないか。地域住民の負担が過大にならない仕組みがあるのか。</p> <p>・観光収益が地域に還元される仕組みがあるか。 ・観光政策が地域経済や定住施策とどうつながるか。 ・住民参加や地域還元の仕組みは具体的に何ですか。</p>	<p>・ご意見ありがとうございます。地域への負担が過大にならないよう、配慮して取り組みを進めて参ります。</p> <p>・観光による地域への経済波及効果は、宿泊費や体験・入場料金のように直接的に生じる経済効果のほか、飲食店で地域産品を食材としたメニューを提供することや、市内でつくられた土産品を販売することなどによって間接的に生じる経済効果もあります。雲南市観光振興計画では第 1 期計画から一貫して、一時的に市内に滞在する人が使ったお金が市内で循環しながら経済効果を生み出していくことをめざしています。このような経済効果が循環することで、市民の皆さんの安全安心な生活環境の整備に寄与する取り組みを推進します。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手不足や高齢化の中で、地域に無理をかけず持続可能に進める実施体制はありますか。 ・里山資源の活用と保全のバランスをどう取るのか。里山の環境や生活文化を観光活用することで、地域住民の暮らしへの負担や資源の消耗が生じる懸念にどう対応しますか。 ・「多様な実践者」とは具体的にだれをさすのか。実際の責任主体や調整役は誰になるのか。 ・「地域とつながる」とありますが、観光客と地域住民の関係をどのような状態にしたいのですか。 ・「市民全体による観光案内の推進」とありますが、地域に負担を押し付けないための支援策はありますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に過度な負担を強いることのないよう、旅行者と地域とのつなぎ役として観光ガイドの存在を重視しています。 ・多様な実践者や観光客と地域住民の関係については計画6ページに記載しています。 ・地域に負担を押し付けないために、観光に直接関わる仕事をしている雲南市観光協会や市役所が相談窓口となり、サポートする体制づくりを進めます。
13	<p>【進捗管理・公表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗管理について、体制は示されていますが、市民から見ると、実際にどの数値が、いつ、どのような形式で公表されるのかがまだ見えにくいです。年1回の総括だけでなく、少なくとも主要 KPI について毎年度、できれば中間段階でもわかりやすく公表し、未達の場合には理由と改善策を明示する仕組みを設けていただきたい。毎年度の検証結果や改善内容をわかりやすく公表し、市民と共有することが、計画への信頼と参加意識の向上につながると考えます。 ・各重点項目のKPIが達成されない場合、計画の見直しはどのように行われますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見ありがとうございます。毎年、個別事業を含めて行政評価を行い、結果を公表するとともに次年度事業の検討材料としています。今後、より分かりやすい方法でお知らせできるよう工夫を重ねてまいります。 ・KPI が達成されない場合でも計画の方針自体を見直す考えはありません。目標数値は感染症蔓延や国際情勢の変動によって見直す可能性があります。
14	<p>【本計画の重点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雲南市として今後5年間で何を特に優先するのか、その重点化の考え方がもう少し伝わると、計画の実効性がより高まるのではないかと思います。強みとして伸ばす分野、基盤整備として先に取り組む分野、将来に向けて試行的に育てる分野など、施策間の関係性や段階性が見えるようになると市民にも理解しやすく、関係者の連携もしやすくなると考えます。 ・3つの基本方針の中で、第3期計画で特に重点を置くのはどれですか。その理由は。 	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重なご意見として参考にさせていただき、今後の個別の取り組みを進めて参ります。 ・3つの基本方針のどれかに比重を置くことは想定しておらず、バランスよく取り組むことで相乗効果を生み、成果につなげることを考えております。
15	<p>【情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前計画でHP アクセス数の達成度が十分でなかったことを踏まえると、SNS 運用体制、広告予算、更新頻度、 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見ありがとうございます。

	<p>効果検証の方法まで明記しなければ目標だけが先行して実効性を欠く恐れがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雲南市観光協会のホームページアクセス数を現状の約38万PVから126万PVへ、インスタグラム流入率を0.6%から10%へと大幅に伸ばすための戦略を教えてください。 ・日帰り客の満足度が宿泊客に比べて低い理由として『ほかに何かあるのか分からない』という声がありますが、情報発信の改善策は何ですか。 ・「旅行者視点に立ったきめ細やかな情報発信」とありますが、現状で旅行者にとって足りない情報は何だと分析していますか。 ・情報発信は増やしても、実際の来訪や消費につながらなければ意味が薄いですが、効果検証はどう行いますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状、ホームページはユーザー1人あたり年2.6回閲覧、インスタグラムフォロワーは約3,000人です。いずれも雲南市観光協会が運営しています。インスタグラムを見た人がホームページで情報を掘り下げ、実際に雲南市を周遊したいと思ってもらえるように、発信する媒体と掲載内容の連動性や発信スキルの向上を図り、目標達成をめざします。 ・情報発信による誘客効果の検証は、インスタグラムの反応や実態調査の結果を用いて行います。
16	<p>【前計画検証(目標値)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前計画で観光入込客数・観光消費額ともに目標を下回った主な要因は何ですか。また、それらの課題は第3期計画にどのように反映されましたか。 ・前計画での外国人宿泊客数目標値が達成できなかった要因は何ですか。 ・たたら関連施設の入込数は目標の150%を達成しています。この成果の要因をどのように分析していますか。 ・市内宿泊者数を21,757人から93,060人へ大幅に増やす目標はかなり高いように見えます。前計画で宿泊客数が目標の40.3%だったことを踏まえ、今回は何が違うのでしょうか。 ・日帰り客満足度が60%にとどまり、「他に何かあるのか分からない」という声があったとあります。この弱点を、次期計画では何をいつまでに改善するのですか。最優先で改善すべき点は何ですか。 ・前計画では観光消費額が31.5億円目標に対し24.1億円で76.5%、HPアクセス数も90万PV目標に対し38.6万PVでした。今回の新計画は何が違うから達成できるのですか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前計画の目標を下回った要因は計画17ページにお示しています。これを踏まえ、外部要因や情勢によって即時に大きな影響を受ける観光入込客数を成果指標から外し、観光消費額のみを指標として設定しました。 ・前述のとおりです。 ・たたら関連施設の入込数には、関連施設の見学者数だけでなく、近代たたらや小だたら体験などたたらのエッセンスを実際に体験できるコンテンツの参加者数も含めています。関係事業者の皆さんによる積極的な取り組みの成果だと認識しています。 ・11番目のご意見のうち、4つめのご意見に対する答えとして前述したとおりです。 ・観光に関する情報発信は主に雲南市観光協会が担っています。旅行者が求める情報を的確に発信できるよう情報収集力、発信スキルの向上に努めてまいります。 ・観光推進の旗振り役となる雲南市観光協会や市役所を中心に、地域への働きかけ、地域内のネットワーク

	<p>・前計画では体験メニュー掲載数が30件目標に対し17件、新商品開発補助金活用も20件目標に対し7件でしたが、弱かった原因をどう総括していますか。</p>	<p>づくりを推進し、目標達成をめざす考えです。</p> <p>・関係者間の意思疎通が不十分だったと認識しています。</p>
17	<p>【満足度向上策】</p> <p>・日帰り客の満足度向上をより確実なものにするため、観光誘導サインの整備、周遊モデルコースの充実、滞在時間別の提案、道の駅と観光施設の連携など、来訪者が次の行き先を選びやすい導線づくりをさらに強化してはいかがでしょうか。</p> <p>・観光誘導サインや経路案内の整備は、来訪者視点でどこが不足していると認識していますか。</p>	<p>・貴重なご意見ありがとうございます。サイン整備については、平成25年3月の松江自動車道開通を踏まえ、平成26年度に雲南市観光誘導サイン計画を策定して整備を進めました。今後、来訪者へのアンケート調査などによって状況を把握し、個別の取り組みを進める中で検討して参ります。</p>
18	<p>【雲南の‘ほんもの’】</p> <p>・雲南の“ほんもの”とは具体的に何を指すのか。どの資源を重点対象とするのですか。</p> <p>・雲南らしさを市内外にどうわかりやすく発信するのか。ブランド力向上を何で測るのがあいまいにならないか。誰がその価値を判断するのか。</p> <p>・ほんものを生かすと言いながら、過度な商業化で地域の魅力を損なう懸念にどう対応しますか。</p> <p>・神話やたたらなど雲南独自の資源を活用したブランド力向上に向けて、具体的にどのような情報発信を行っていく予定ですか。</p> <p>・「ほんもの体験」コンテンツの数を現状の16件からR12年度30件に増やすにあたり、どの地域・分野を優先的に開発しますか。</p> <p>・観光ガイド、観光タクシー、レンタサイクル、シェアカーなどの交通手段は、観光客に分かりやすく一体的に提供できる</p>	<p>・‘ほんもの’とは雲南市の歴史に裏打ちされた伝統文化、技、食資源、それらを受け継いでいる市民の皆さんと考えています。中でも、たたらや出雲神楽にまつわる資源は観光客の受け入れ基盤があることから、重点として取り組みを進めます。</p> <p>・雲南らしさは雲南の‘ほんもの’を通じて発信、体感してもらうものと認識しています。ブランド力はこれらを体験した人たちの満足度に表れると考えます。価値は特定の人判断するものではなく、多様な主体による評価の積み重ねによって形成されていくと考えています。</p> <p>・雲南の‘ほんもの’の本質的価値を損なわないことを前提に、適切なルール設定と関係者間の合意形成を図ることで対応します。</p> <p>・基礎的情報を掲載するホームページのほか、SNSで旬の情報や訪問意欲を高める情報を発信します。</p> <p>・地域や分野にこだわらず、観光客の受け入れに前向きな事業者や団体と連携しながら進めます。</p> <p>・いずれも雲南市観光協会が担っています。観光客がより利用しやすく</p>

	<p>のですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験コンテンツ掲載数を16から30に増やすだけでなく、売れるコンテンツにするための基準はありますか。 	<p>なるよう情報発信や利用方法を工夫します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売れるコンテンツにするための一律の基準はありませんが、体験者の声をヒアリングし、その声を反映してコンテンツを磨き続けることが必要と考えています。
19	<p>【地域資源を観光に活用して価値化する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存資源の磨き上げと新規開発の線引きはどうするのか。 ・一過性のイベント型で終わらないか。 ・体験商品化や情報発信の具体策があるか。神話やたたらをどのように観光商品や体験に結びつけるのか。 ・食と食文化の活用では、市内産品を味わえる環境づくりを進めるとありますが、飲食店側への支援は十分ですか。 ・新商品開発事業補助金の活用件数は前計画で低調でしたが、今回どう改善するのですか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存資源の磨き上げと新規開発の区別にこだわらず、観光客の受け入れに前向きな事業者や団体と共に地域資源の付加価値化に取り組みます。 ・一過性で終わらないことを前提に取り組みます。 ・体験商品化や情報発信は長期的な試行錯誤が必要となります。さまざまな具体策を展開しながら磨き上げを続けます。出雲神楽鑑賞を通じて旅行者には出雲神話の世界観を感じてもらうことができ、たたらは関連施設の見学やたたらを実際に体験するコンテンツを通じて観光客に楽しんでいただいています。 ・意欲的な飲食店への支援は補助制度の紹介のほか、常に相談を受けられる体制を整えています。 ・新商品開発に限らず、長年愛されている雲南市産品・土産品こそ雲南市の‘ほんもの’であることから、KPI 自体を見直し、雲南市のふるさと納税返礼品の品数を通じて評価を行う方法に改めます。(計画 11 ページ) ふるさと納税の返礼品は雲南市内で生産、加工、開発された産品(または関連サービス)であることが求められています。
20	<p>【計画の推進体制・進捗管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庁内連携や地域連携の体制があるか。 ・進捗管理はPDCAで行うとありますが、未達成の場合に誰が見直しを提案し、どの時点で事業や指標を修正するのか、責任分担を明確にできますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6番目のご意見の回答にて述べたとおりです。 ・進捗管理は雲南市観光振興会議で年1回、おおむね夏までに前年の振り返りを行っています。また、指標を修正する想定はありませんが、事

	<ul style="list-style-type: none"> ・この計画は総合計画や産業振興ビジョンとどう役割分担し、どこで観光分野として独自性を出すのですか。 ・計画期間中に情勢が変わった場合、どの段階で誰が見直しを行うのですか。 ・観光実態調査や観光動態調査の結果を、実際の施策変更にどう結び付けるのですか。 ・マーケティング手法を整備するとありますが、具体的に誰が分析し、どの会議体が意思決定するのですか。 ・観光振興会議と観光マーケティングチームは、単なる協議の場ではなく、どこまで改善を実行できるのですか。 ・目標未達が続いた場合、事業の縮小・転換・中止まで含めて見直す仕組みはありますか。 ・年間スケジュールでは評価・報告・提案が並んでいますが、市民が結果を確認できる公開方法はどうなっていますか。 	<p>業内容や目標値については行政評価において庁内部局横断で見直し、点検しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画案4ページにお示したとおりです。雲南省の観光施策の方針を示す計画は雲南省観光振興計画以外にはありません。 ・前述したとおりです。観光客へのアンケート調査結果などを踏まえた改善策は観光マーケティングチーム会議において議論し、必要に応じて見直しを行っています。 ・各種調査結果を参考にしながら、雲南省観光振興会議及び観光マーケティングチーム会議で議論し、施策展開を行います。 ・各種調査結果は市役所において分析し、雲南省観光振興会議での議論を踏まえて決定します。 ・前述のとおりです。 ・行政評価において随時見直しを行います ・行政評価の結果の公表として公開しますが、より分かりやすい公開方法について引き続き検討します。
21	<p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果指標が観光客数だけに偏っていないか。 ・成果指標を観光消費額ひとつに絞った理由は何ですか。入込客数、宿泊者数、満足度などを主指標から外しても施策の実効性を十分に検証できますか。 ・観光消費額を24.1億円から33.1億円まで伸ばす根拠は何ですか。宿泊増と物価上昇を見込む推計ですが、どの要素がどれだけ寄与する想定ですか。増加分は宿泊増・単価増・周遊増のどれを主に見込んでいますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見ありがとうございます。入込客数、宿泊者数は外部要因や国内外の情勢によって即時に大きな影響を受ける数値です。このため、観光振興の成果指標から除外しました。満足度は重点項目の指標として設定し、基本事業の成果を検証して参ります。 ・観光消費額の増加は宿泊客数増加を見込んだものです。R7年度中に開業した宿泊施設と、観光動態調査に協力いただける宿泊施設が増えたことから大きく伸ばす目標としています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・現状値から目標値までの達成に向けて、特に力を入れる施策はどれですか。 ・観光消費額の推計において、宿泊と日帰りの比率を用いていますが、この比率を改善するための取り組みはありますか。 ・体験メニュー掲載数や新商品開発補助金活用数は前計画で伸び悩みました。今回は体験コンテンツ掲載30件、補助金活用10件をどう達成するのですか。 ・観光消費額の推計は宿泊者数の増加や物価上昇率を考慮するとありますが、想定が外れた場合の代替策はありますか。 ・宿泊者数を 21,757 人から 93,060 人へ伸ばすには、受入施設・交通・商品造成が必要ですが、どこが最大のボトルネックですか。 ・宿泊客数は54,000人目標に対し21,757人とどまりました。施設開業の遅れ以外に、需要創出策の弱さはなかったのですか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊者数の増加につながるよう、関係団体や近隣自治体との連携を強化します。 ・雲南市内の滞在時間の延伸につながる体験コンテンツの充実など、泊まってもらう仕掛けづくりに取り組みます。 ・体験メニュー掲載数は雲南市観光協会において取り組みます。また、R7 年度をもって新商品開発補助金が終了したため、今後は雲南市ふるさと納税の返礼品数を用いて検証して参ります。 ・代替策ではなく、基本事業の検証を行い、必要に応じて事業内容を見直します。 ・前述したとおり、雲南市全体の宿泊受入規模です。 ・前計画期間の約半分はコロナ禍で市民の皆さんの安全安心な暮らしの維持を最優先していました。このため、積極的な需要創出策は展開できませんでした。
22	<p>【広域観光】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雲南市が広域観光の中で通過点ではなく滞在先としてどのような役割を担うのか。 ・広域観光を進める中で、雲南市は周辺自治体の通過点ではなく、どのように「滞在地」になるのですか。 ・広域観光における近隣市町との周遊策として、どのような 	<ul style="list-style-type: none"> ・雲南市は山陽・四国方面と、松江・出雲・大田市・鳥取県大山方面との中間地点に位置します。これら知名度のある観光地を訪問する際に憩いの時間を過ごせる場所として役割を担います。 ・名所 100 選に選定されている桜や滝、棚田をはじめ、地域に受け継がれている伝統文化や食資源など魅力的な観光素材がたくさんあります。また、宿泊施設も増えたことから、受入可能数も伸びました。前述のとおり、さまざまな旅程の中で憩いの場として雲南市内に滞在し、自然や文化に触れながら癒しの時間を過ごしてもらえるような滞在地をめざします。 ・広島空港や広島市内をしゅっぱつ

	<p>取り組みが計画されていますか。</p>	<p>し、三次市を經由して、雲南市、松江市を周遊するコースは台湾の観光客に高く評価されています。また、フランスからの誘客に取り組む出雲市が取り組むツアーでは広島市内と出雲市を結ぶコースに、雲南市内のたたら関連施設の見学を含め、高い関心を得ていると聞いています。今後もこのような近隣自治体との関係性を維持、発展させ、安定的な集客につながるよう取り組みを進めて参ります。</p>
23	<p>【道の駅】</p> <p>・道の駅売上額を5億4,898万円から8億2,750万円に伸ばす目標ですが、道の駅によってはピーク時から半減ともあります。4駅一体で何を改善し、どこまで回復を見込んでいますか。4駅間の連携強化はどのように図りますか。</p> <p>・道の駅4駅を魅力発信拠点にするとありますが、それぞれの役割分担はどう考えていますか。</p> <p>・道の駅売上額を5億4,898万円から8億2,750万円へ伸ばすための具体策は何ですか。</p>	<p>・市役所が旗振り役となって市内産品を押し出した品揃えの強化やイベント情報の交換など、連携強化に向けた関係性づくりに取り組んでいます。また、雲南市観光協会が主導するツアー企画や旅行会社への提案により、雲南市への滞在・誘客・市内周遊促進策を展開します。</p> <p>・4駅の役割分担は、令和5年度に策定した「雲南市道の駅活性化ビジョン」においてお示ししています。</p> <p>・先述の道の駅の連携強化に向けた取り組みをはじめ、道の駅の基本機能(休憩、情報発信、地域連携)の充実、地域産品の販売や地域の歴史文化を踏まえたイベントの開催支援などを通じて、観光客だけでなく市民にも愛されるよう道の駅の魅力化を進め、観光消費、経済効果の拡大をめざします。</p>
24	<p>観光列車「あめつち」の観光振興や中活協が提言した木次駅周辺再整備(再開発)事業、賑わい、活性化の現在の進捗状況は？頓挫しましたか？県外客やインバウンド誘客になる駅前公園、駐車場 再整備(再開発)事業に着手し、取り組んでもらいたい。24年9月6日新聞に掲載</p>	<p>ご意見として受け止め、地元の意見、動きを見ながら検討して参ります。</p>